

校 友 会 報

第 9 号

昭和41年9月30日

日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定

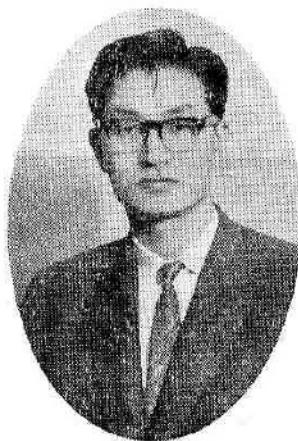
電話 郡山 (2) 1563 番

発行人 柳沼福夫

編集人 篠崎道夫

学部名改称に際して

工学部次長 広川友雄



昭和二十二年に専門部工科として郡山に発足した私共の学部は、昭和二十四年に第二工学部として新制大学の歩みを始めた。そして発足以来二十年目、学部としては十八年目を迎えた今、学部名は工学部と改称されることになり、昭和四十二年三月には工学部としての第一回の卒業生を出そうとしている。又第二工学部校友会も工学部校友会と改称されることになつたのであるが、これらのこととは卒業生諸君も既に御存知のことと、それぞれ思い思いの感慨にふけつていらされることと思います。

発足以来、学園と共に生きて来た私としても数々の懐いが、或は互に矛盾する気持も交りながら後を絶ちません。

端的にいって、学部名変更の希望を申し出た学生に、「名称は何であつても実力があればよいではないか」「名称がいかによくとも実力がなければ何にもならない」時には、「レツテルを張り換えるても中味は変わぬ、問題は中味だ」ともいながら声を上げました。そして殆どの学生はその気持で負けじ魂を奮い興して呉れていたものと思つています。

それを此度は工学部と改称することに努力しました。今度は実は出来そうに思えたし、又やらねばならない事情もありました。

お蔭様で大学本部その他要路の方々の御力添えで、改称されたのであり感謝に耐えない次第であります。先に云つた「名称より実力」と申したことは今こそ尚声を

大にして申さねばならないことだと思います。

校友の諸君も新しく出る卒業生に対し、充分いましめていただきたいものです。

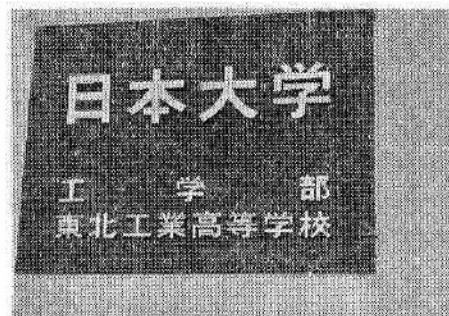
又この際卒業生の諸君に望むことは今後益々母校の発展に協力して頂き度いことです。即ち卒業生の面倒をよくみて頂くと共に、郡山によい学生をできるだけ多く送つて頂くことです。

そして卒業生と母校とが共々に発展するよう、今後共力になつて頂くよう希望致します。

(筆者、広川先生は、工学部の次長・理学博士・一般教養科教授である。第二工学部が工学部に改称されるとともに、新しく次長として重責に就かれたのである。広い識見と、遠大なる抱負と、熱烈なる実践力とが、一日一日大学の運営面に具現しつつあることは、誠に喜びに堪えません。深く敬意を払うとともに、将来に期待するところ大なるものがあります。先生の御健闘を祈りつつ、会報を通して校友各位に紹介いたします。)

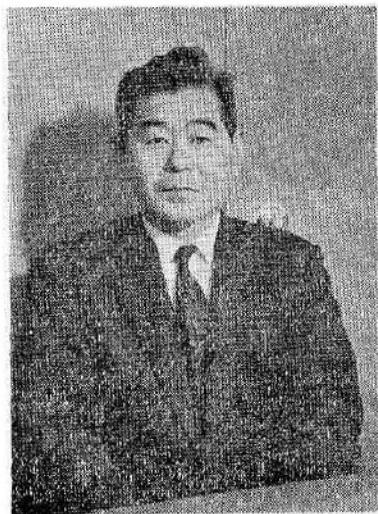
念願達成……新らしい正門

学部・学生・校友のみんなが、待望していた正門が、この夏に完成し、写真のように鮮かな門標ができあがつた。また、校内の道路もほとんど舗装された。



指導委員制度について

指導副委員長 外木有光



工学部校友会より標題の内容で書いて欲しいと原稿用紙を持つてこられた。考えてみると、指導委員制度そのものについてであるか、制度の現状についての説明であるか、その他この標題の捉え方はいろいろあると思う。私としては今年から変つた新しい制度の説明の方がよいのではないかと思われるからこの点に関してのみ書かせていただくことにする。そして指導委員の制度そのものに対する御意見なり、御批判なりは、むしろその中にある我々が云々するより第三者として諸君よりうかがう方が有益であろうと考えている。

今迄学生の指導、相談と学生々活に関連する事務とは、学生課で混然として行なわれてきたが今年からこの機構が変わり、教員担当の指導、学生相談の分野と学生々活に関連ああ事務担当の分野とが分けられた。従来と同じ名称の学生指導委員長は勿論二つの分野を統轄しているが新たに副指導委員長と常任指導委員の制度がで

き、学生相談室において直接学生に接し、またこの室の運営の任に当つている。

これまでより行き届いた学生指導を目指と共に、近時大きな問題となりつつある精神衛生面のカウンセリングにも重点を置き、いずれは心理学を専攻した専門のカウンセラーなども専任されるよう当局に要望を出している。また学生々活の行事（新入生歓迎、大学祭、卒業生予頃会等々）体育、文化、厚生等細分化された分野の担当常任委員が任命され各委員と学生とで学生の希望、意見を充分反映して実行する組織が作られている。これは従来学生課長が担当していたことであるが、一人では充分学生の意向を取り入れたものが出来ないきらいがあつたのでこの点を改善すべく造られたものである。

四月から新入生歓迎会、大学祭の準備計画、東北地区大学総合体育大会、合宿の問題、部室の設置、校医の医療補助、購買、等の問題を実施してきた。このように多くの問題が従来に較べて解決の速度を早めてきたことは常任指導委員制度を設置した効果であると思う。

事務面では学生課長（名称は同じでも以前とは性格が異なる）が事務系から任命され（現在未決定）ここで純事務に関する仕事を行つている。

このように指導の制度が大きく変わり、事務面と離れて、学生に対する直接の指導面が効果的になり且つ強化されてきている。

（筆者は学生指導副委員長・機械工学科教授）

ご挨拶

校友会長 根本年雄



校友の諸兄には、ますます御健勝で全国各地において御活躍のことと思い、心からお喜び申上げます。

昭和41年度の定期総会では、いかずも、御推薦にあざかり微力では御座居ますが、会長の座を汚すことになりました。何分至らないものでありますから、校友諸兄の御期待に添えるかどうか、心配いたしたところでございましたが、幸い優秀な女房役である、副会長、理事をはじめとして各役員諸兄の協力を得まして、より一層会員相互の親睦を深めて、校友会の目的を達成したいと思っております。どうか校友諸兄におかれましても、私達役員に倍旧の御協力と御指導を、お願ひする次第です。

校友会が誕生して以来、会員相互の向上と、親睦とを

深めるために、毎年各種の事業を行つて年々その成果をあげておりますことは喜ばしいことであり、今後も永続させなければならないことであると考えます。

さて、校友諸兄も既に新聞その他で御承知の通り、母校は輝かしい発展を遂げ、私達も多年熱望していた校名変更が、本年度において実現し、日本大学工学部と改称されました。私達にとつては、愛着をもつていた第二工学部が、改称されたさびしさは感じられますけれども、母校の発展と、後輩のために誠に喜ばしいことあります。この期に更に学内の充実を図り、母校の発展と、一人でも多くの優秀な人材を、社会に送り出すことを願つてやみません。また本年は校舎と内部諸設備が充実され、大講堂兼体育館が完成し、図書館の竣工も間近に迫つております。今秋には母校創立20周年記念行事が輝かしく盛大に行われようとしております。このときにあたり、校友会も過日の総会において、日本大学工学部校友会と

改称されましたので、更に内容の充実を図り、より一層会員相互の親睦を深め得る校友会へ、脱皮する時期であり、今日よりは明日へ、明日よりは明後日と発展性のある校友会に、いまや 4000人の校友の力を結集して邁進してゆくべき時期であると思います。それには種々なる問題点があるけれども、まず、校友会の本質的な存在価値を再検討するとともに、校友、学生、学校と三者間の親睦を深めることが最も大切なことであり、この三者の親睦があつてこそ、校友会の各種事業の成果があり、発展性があり、校友会の存在価値があるものと考えます。例年の校友会の事業内容も、これらを根本理念として行っていることは、私が今更申上げるまでもありません。本年は恒例の事業の外に校友のために郡山駅付近に指定旅館をもうけたらとの声がありますので、これを実現させ、校友の宿泊の便宜を図りたいと思つております。

また学生には体育の振興のために、体育振興費の援助を行い、校友会としては、母校、ならびに校友会改称による特別事業として、永遠に第二工学部の名称を、この地に残すために記念すべき事業を行いたいと思つております。

その他、校友、学生のために、今後種々なることを、事業の一端として行いたいと思つておりますが、前会長も会報第7号で強調されたように、毎年の収入が固定されつつある近年、支出については、校友が毎年増えるに従つて増加の一途を辿つて行くことは間違ひのないこと、校友活動の今後に残された、大きな問題点として、真剣に取組まなければならない問題であると思います。

最後に、全国各地でご活躍されている、校友諸兄の健康と発展をお祈りいたします。

(機械科 4回卒 日本国鉄道郡山工場勤務)

雑感 —常日頃思つてのことなど—

渡辺幸夫

今年の3月下旬に、第二工学部校友会の東京地区懇親会を新橋の第一ホテルで開き、私もこの会に出席しましたが、予想以上の校友の出席があり、かつ、古田会頭始め各科の先生にも御出席いただき、非常に盛大な会合になつたことを喜んでいます。それと同時に、私を喜こばしたのは、福島に帰つてきて、いただいた名刺を整理したところ、どの名刺をみても、名前の上に立派な肩書がついていることでした。主任、係長、課長、参事、所長、社長、等々。そのどれもが、人の上に立つて仕事をしているのをみて、うれしく思いました。これらの校友は上役から、うでがたつ、経験も充分であると云うこと認められた結果であるが、これと同時に、人間としても立派だと云い得る人になつて始めて総合された価値を認められたものと思います。

実際、世の中にたつて人を動かし、仕事をしてみると専門の技術で頭をいためるよりは、対人間関係で頭をいためる方が多いだろうと思います。ましてや部下をもつようになれば、尚更のことである。そこで監督者として上役、部下との関係について、参考までに書いてみたいと思います。

1. 上役との関係

あなたは部下に対してよい監督者であるとともに、上役に対しては、よい部下、よい補佐でなければなりません。心から信頼されるよい補佐となるためには、上役から仕事を頼まれたら、その仕事の内容、方針をよく理解し、部下を通じて具体化するのが、あなたの責任であり、もし、上役からの指示があなたの意見とくい違う場合とか、部下の考え方と違うような場合には、中間で非常に苦しい立場にたつことになりますが、上役の命令だからと一方的に仕事をおしつければ、仕事に対する意慾

を部下にもたせることはできません。よく上役の考えを説明し、それでも部下やあなたが納得しない場合には、上役に対して率直に意見をのべ、それでも指示が同じ場合には、上役の意を体して、その実現に努力するのです。

2. 部下との関係

監督者はまかせられている仕事を、部下を通じて正しく早く具体化していかなければなりません。これが監督者の根本的責任です。

どうしたら仕事をむだなく、むりなく進行させて、最高の成果をあげることができるか、このようなことこそ監督者が常に頭をなやましている問題に違いありません。このためには、周到な計画をたて、正確に命令を与え、たえず仕事の状況に気をくばると同時に、事情の変化に応じて、それぞれ適切な処置をとらなければなりません。工事を請負つて損をしたという話を時々聞きますが、これらの原因を調べてみると、大抵段取りのまずさによるもので、業者の上役と部下とがしつくりいつてない場合が殆んどだろうと思います。

3. おわりに

以上いろいろと書いてみましたが、上役からも、同僚からも、部下からも、また外部の人間からも立派な人間だと認められるためには、技術的なもののほかに、人間的なものがいかに大切であるか、皆さんも痛感していることだと思いますが、どうぞこれらのこととも頭に入れて、ファイトをもつて、今後大いにがんばつて、仕事をしてくれるようお願いします。

(41. 4. 1)

(筆者は前校友会長 土木科1回卒

福島都市計画事務所工務課長)

東京地区懇親会（第2回）を開く

約150名の校友が出席

昭和41年3月24日夜、東京の第一ホテルで、第二回目の東京地方に住む校友の、懇親会が行われた。

これは前回に行れた懇親会のよかつた事を思い出し、数年たつて、また前回の様な懇親会をぜひ行なつてくれと、都内に住む校友から要望が高まり、前回同様に3月に行れた。当日は卒業式の前日であり、先生方が多数上京して居ましたので、招待し出席して貰きました。また日本大学会頭の古田先生は卒業式前夜の忙がしい時間の中にもかかわらず御出席され、増え発展する吾日本大学の将来性について講演された。

校友の出席者数は大凡150名にもなり、会場のあちらこちらで肩をたたき合つたり、乾杯のコツブの音が聞こえていた。或る校友は出席を予定していたが、急な仕事の都合で出られない、残念だがよろしく、と電話で連絡して来たり、今日会社の出張から帰り急いで出席したと話込む校友、都内の会社に居ながら、卒業以来逢う機会がなく、会場を待合せの場所として再会を喜んでいる校友、又会社に居る大先輩に、ぞろぞろと引き連れられた



後輩、いろいろな話題後となごやかな雰囲気の内に時間は早く過ぎた。最後は応援団であった校友の

リーダーで校歌を力強く合唱し、第二回懇親会は幕となる。前回同様に予想以上の盛大な懇親会となり、今後このような会がもたれる事を希望するしだいである。（写真右は挨拶する古田重二良日大会頭、左は会場の広川先生と江崎先生である）

大講堂などが竣工

着々と学園が充実

かねてからの念願であつた、大講堂と図書館は、去年秋から着工されていたが、今夏に竣工、10月25日には、創立20周年記念式典といつしよに、盛大に落成式を行なうことになつた。

大講堂兼体育館



一部3階建 延面積 5166m² 建築費 1億5000万円
図書館

5階建 延面積 3457m² 建築費 1億3000万円
大講堂の一階の部分は、学生ホール（食堂）となつており、400人が同時に食事が出来ることになつていて。

又、図書館の外部には雄大な壁画があり、夕日に映えると美しい色彩を表わしている。

なお、新実験室として、1000坪のもの3棟が近く着工されることになつていています。



会員消息

—事務局ではこの頁の投書をお待ちしております
写真・スケッチなども歓迎いたします—

鈴木 清（電2回） KK大興電機

前略

毎日暑さ厳しく、大変な日々が続いている事と存じます。当地アメリカも $80^{\circ}\sim100^{\circ}\text{F}$ 近い暑さが続いて居りますが、案外湿度がないので、さ程感じない様です。

学内の研究活動はその後如何ですか、そのうち又御邪魔してみたいものです。

小生の今回の渡米は、新技術導入のためですが、彼等の合理的な物の考え方やら、作業態度やら、中々参考になる面が多いです。但し全面的に非の打ちどころがないと言う訳でもありませんで、当地の技術屋と、討論する場合、吾々の考え方、進め方も彼等にはやはり中々参考になる様で、大部感謝されております。

日本の技術者や学者達が、もつともと他の国に出て、大いに討論し且つ助け合つて、人類社会の発展のための前進に努力し合う必要を、痛感している次第です。（41.7.22）（ニューヨークにて）

塙田 敏郎（電12回） 昭和電機製造KK

校友会報を手にし、懐しかつた学生時代を思い出させられ、この追憶は大切にして行くべきじやないかと思ひます。加えて、この学園の卒業生は、一応に卒業しつばなしのが多勢じやないかと思ひます。

私は、社会に出てまだ日数が浅いので、なおのこと、同学園同志の結びつきの弱さが目につきます。皆さん、この点を大いに考えて、お互に強く結びつき、協力して行こうじやありませんか。私共電気科第12回卒業生で細々ながら“懐友”という名前の機関誌を作つております。

昭和39年度の第1回発行の内容は、「お互の職場案内」でした。昭和40年度の第2回発行は「各々の職場を通しての自分の立場から見た社会観」等として、原稿を募集しました。そしてなんとか第2号まで発行してまいりましたが、内容は弱々しいかぎりです。どうか電気第12回卒業の皆さん、どんどん原稿を送つて下さい。昭和41年度分（第3号）の原稿内容は「私と電

気」とでもしておきます。

又、私は、昨年、電気科の縦の線も作りたいと思ひ、第1、2回の卒業生にも少々、この案に対する考えを聞いて見たのですが、なんにも返信ありませんでした。この会報を御覧になつた電気科の有志の方、お考えをお伝え下されば幸です。

「在仙会」について

日大卒業生で、仙台市に住んでいる人達が集り、「在仙会」を組織して親睦を深め、激励し合いながら、それぞれの職域において活動していることを、お知らせします。今後ともよろしくお願ひいたします。（連絡場所）

仙台市役所ガス局供給課 川越健也（土6）

仙台市役所水道局拡張第一工事係 阿部 誠（土7）

（旧姓佐々木）

七海 幸俊（機械工学科2年）

私は今年度、あかしや育英奨学生に採用された者です。

私は農家に生まれ育ちました。そして父が学問の重要性を理解してくれましたので、現在この日本大学に通学しております。しかし我が家が農業を営んでいるという例にもれず、私も学問をするにはあまりむかない家庭環境に育ちました。特に家に本が少ないということを、大きくなるにつれて強く感じてきたのです。私の同級生で、父が先生をしていて家に本がいっぱいある、という友人がおりますが、私はその友人をたいへんうらやましく思います。それで自分でも少しは本を集めましたが、それもわずかでしたので中学、高校生時代は、学校の図書館に放課後によくかよつて、本にしたしむように勉めてきました。

それで、このたび奨学金が支給されるのを機会に、せひとも本を買い集めたいと思います。このことは奨学ということに反しないまでも、そぐわないのではないかとも思いますが、私が第一にしたいことです。

コンクリート型枠剥離剤「モールド」……工作機械油

東京事務所 斎藤 宏二（工化11回卒）

株式
会社

宏栄社 化学研究所

東京事務所 東京都渋谷区笹塚1-13 TEL (466) 0723
本社工場 小樽市轟上町18 TEL (2) 5423 (6) 4073

昭和41年度
校友会総会開催

昭和41年度総会は、去る5月8日午後1時から「郡山商工会館第1会議室」において、広川次長、各科主任教授を来賓として迎え、多数の校友出席のもとに開催された。

昭和40年度の事業並びに会計決算については、別項の通り報告・説明があり、承認された。統いて昭和41年度の予算の審議と役員の改選が行われ、これまた別項の通り決定、承認された。

特に本年度は校名が改称されたので、校友会も日本大学工学部校友会となつた。したがつて必然的に会則の一部改正が提案され審議決定したことを、報告しておきたい。

昭和40年度歳入歳出決算報告書

A 経常費の部

款項	説明	種目	予算額	決算額	比較増減
----	----	----	-----	-----	------

1 歳 入					
(△印は比較増)					
会費	1 一般会費	520,000	530,016	△10,116	
	2 終身会費	1,740,000	1,740,000	0	
入会金	3 入会金	740,000	868,000	△128,000	
繰越	4 前年度繰越	79,301	79,301	0	
雜	5 会館設備資金	740,000	750,000	△10,000	
入	6 頂金利子	150,000	130,123	19,877	
	7 雜入	66,000	71,607	△5,607	
	合 計	4,035,301	4,169,047	△133,746	
	8 口座違いによる入金	0	0	0	
	総 計	4,035,301	4,169,047	△133,746	

2 歳 出

事務費	1 給 料	503,650	503,650	0
	2 諸 手 当	289,450	289,077	373
	3 役職費	90,000	90,000	0
	4 旅 費	81,000	79,160	1,840
	5 交際費	44,000	41,665	2,335
	6 消耗品費	90,000	89,983	17
	7 燃 料 費	13,000	12,370	630
	8 食 粧 費	3,000	1,500	1,500
	9 印刷製本費	50,000	46,895	3,105
	10 通信運搬費	234,200	232,282	1,918
	11 借料及損料	4,000	1,740	2,260
	12 修繕費	15,000	11,431	3,569
	13 備品費	32,800	32,800	0

事業費	14 負担補助交付金	50,000	50,000	0
	計	1,500,100	1,482,553	17,547
	15 貸 金	10,000	9,800	200
	16 会報発行費	76,000	76,000	0
	17 名簿作成費	259,995	259,995	0
	18 下宿幹旋費	15,000	10,550	4,450
	19 アカシヤ奨学生費	72,000	72,000	0
	20 卒業祝賀会費	155,000	154,620	380
	21 特別事業費	106,400	106,400	0
	計	694,395	689,365	5,030
会議費	22 総会費	20,000	19,380	620
	23 役員会費	60,000	56,910	3,090
	24 旅 費	5,000	2,020	2,980
	25 雜 費	5,000	1,200	3,800
	計	90,000	79,510	10,490
予備費	26 予備費	10,806	10,300	506
	計	10,806	10,300	506
積立金	27 積立金	1,740,000	1,740,000	0
	計	1,740,000	1,740,000	0
	合 計	4,035,301	4,001,728	33,573
	口座違い入金による返金	0	0	0
	総 計	4,035,301	4,001,728	33,573

歳入 4,169,047円 嶢出 4,001,728円
= 残額 167,319円

残額 167,319円は次年度へ繰越すものとする。

B 積立金の部

1. 積立金(終身会費)

前年度繰越	1,560,000
本年度積立	1,740,000
本年度残額	3,300,000

2. 事業基金積立金

前年度繰越	257,318
本年度利子	1,375
本年度残額	258,593

3. 退職積立金

前年度繰越	45,841
本年度積立	
校友会	35,258

事務員	15,107
本年度利子	931
本年度残額	97,137

4. 名簿作成積立金

前年度繰越	106,973
本年度利子	2,948
経常費の名簿作成費より編入	254,074

名簿作成支払 -363,935
 本年度残額 0
 以上4種の積立金の本年度残額は41年度へ繰越す
 ものとする。

昭和41年5月8日

日本大学第二工学部校友会

会長 渡辺 幸夫

昭和41年度予算

経常費の部 日本大学工学部校友会
 款項 説明 種目 予 算 40年度決算額 比較増減

1歳入			(△印は比較増)
会費	1一般会費	570,000	530,016 △39,984
	2終身会費	1,600,000	1,740,000 140,000
入会金	3入会金	1,700,000	入会 868,000 △82,000 750,000
繰越	4前年度繰越	167,319	79,301 △88,018
雜	5預金利子	200,000	130,123 △69,877
入	6雑入	75,000	71,607 △ 3,392
	合計	4,312,319	4,169,047 △143,272
	口座違いによる入金	0	0 0
	総計	4,312,319	4,169,047 △143,272

2歳出			
事務費	1給料	553,300	503,650 △49,650
	2諸手当	310,000	289,077 △20,923
	3役職費	100,000	90,000 △10,000
	4旅費	130,000	79,160 △50,840
	5交際費	50,000	41,665 △ 8,335
	6消耗品費	83,000	89,983 6,983

事務費	7燃料費	15,000	12,370 △ 2,630
	8食糧費	4,000	1,500 △ 2,500
	9印刷製本費	70,000	46,895 △23,105
	10通信運搬費	280,000	232,282 △47,718
	11借料及損料	5,000	1,740 △ 3,260
	12修繕維持費	20,000	11,431 △ 8,569
	13備品費	75,000	32,800 △42,200
	計	1,695,300	1,432,553 △262,747
	14賃金	15,000	9,800 △ 5,200
	15会報発行費	180,000	76,000 △10,4000
	16名簿作成費	160,000	259,995 99,995
	17下宿斡旋費	35,000	10,550 △24,450
	18アカシヤ奨学生費	72,000	72,000 0
	19卒業祝賀会費	160,000	154,620 △ 5,380
	20校友と学生の懇談会費	60,000	0 △60,000
	21負担補助援助	50,000	50,000 0
	22特別事業費	160,000	106,400 △53,600
	計	892,000	739,365 △152,635
会議費	23総会費	20,000	19,380 △ 620
	24役員会費	60,000	56,910 △ 3,090
	25旅費	5,000	1,200 △ 2,020
	計	85,000	79,510 △ 5,490
予備費	26予備費	40,019	10,300 △29,719
	計	40,019	10,300 △29,719
積立金	27積立金	1,600,000	1,740,000 140,000
	計	1,600,000	1,740,000 140,000
	合計	4,312,319	4,001,728 △310,591
	口座違いによる入金の返金	0	0 0
	総計	4,312,319	4,001,728 △310,591

昭和41年度役員

会長	根本 年雄 (機4)	監事	後藤 尚 (化2)	評議員	伊藤 龍雄 (建4)
副会長	三沢 好夫 (建4)	同	高野 操 (化3)	同	健藤 健二 (機3)
同	半沢 忠 (化6)	幹事	菅野 宗和 (機2)	同	村田 吉晴 (土12)
理事	〔事務局長・総務部長・ 事業部長〕	同	遠藤 達雄 (電3)	同	木村 圭二 (建3)
理事	柳沼 福夫 (機5)	同	山岸 利正 (電4)	同	武藤 貞泰 (土8)
理 事 (経理部長)	同	佐々木賢一郎 (建8)	同	揚妻 邦男 (電4)	
理 事	宍戸 敏雄 (電6)	渡辺 清末 (電4)	同	味川 満丸 (機9)	
理 事	篠崎 道夫 (化2)	小栗 治男 (建7)	同	赤城 悅二郎 (化4)	
同	鈴木 光保 (土5)	遠藤 喜彦 (化9)	同	菊地 修三 (化7)	
同	平手 仁 (化5)	評議員	星 一以 (電11)	同	佐藤 捨夫 (機4)
同	小林 秀一 (土7)	同	続橋 忠良 (土7)	同	鈴巻 旦男 (電3)
監事	関根 昭一 (電2)	同	玉木 仁 (電6)	同	橋本 耕吉 (機11)
			太田 雄八郎 (土3)	同	田部 栄二 (化7)
			鳥羽 重幸 (電1)	同	黒田 浩司 (機9)
			横溝 秀雄 (土6)	同	阿部 文英 (電7)

NEWS

◎校友会名を改称

日本大学第二工学部校友会では、第二工学部が工学部に改称したことに従がつて、「日本大学工学部校友会」と改称することが去る5月の総会で決つた。

また、日本大学ではこの四月から、「理工学部」「工学部」「生産工学部」の三学部が鼎立することになつた。

◎菊池光子君が工博に

工業化学科第2回卒業の菊池光子君（現、日本大学工学部講師）は去る3月末に工学博士の学位を授与され、庶務課から次のことが発表された。

菊池 光子（福島県）

三硫化モリブデン触媒によるテルペン類および関連化合物の加圧接触還元に関する研究

昭和41年3月29日

日本大学

◎本郷助教授が工博に

電気工学科の本郷助教授は、工学博士の学位を授与され、同様の発表があつた。

本郷 忠敬（愛知県）

単相全波整流回路理論

昭和41年3月29日

日本大学

◎昭和41年度あかしや育英奨学生

永 田 博 明（建築学科2年）
愛知県立岡崎高等学校出身

桑 名 敏 雄（機械工学科2年）
福島県立安積高等学校出身

七 海 幸 俊（機械工学科2年）
福島県立安積高等学校出身

校友会の歴史

年度	月 日	要 項	歴代会長
昭和33	5.22	日本大学第二工学部校友会として誕生し、第1回総会を郡山商工会議所において開く。	1. 渡辺幸夫 (土木1回)

昭和42年度学生募集

- 募集学科 土木工学科・建築学科・機械工学科・電気工学科・工業化学科
- 試験科目 数学（I・II B） 英語（B） 理科（物理Bか化学B）
- 試験期日 東京出張試験（2月23日） 郡山試験（3月9日）

日本大学工学部

福島県郡山市田村町

34	5.17	校友会館を校内南西部敷地に新築し落成式を挙げる。	2. 関根昭一 (電気2回)
35	9	バス待合所を設置し学校に寄贈する。	
	10.15	第1回校友会報を創刊し、全校友に発送する。	
	11	あかしや育英奨学制度をつくり奨学金をはじめて支給する。	
36	3	学生へ下宿の斡旋を開始する。	
	7	日本大学工科校友会との連絡をはかる。	
	10	下宿主との懇談会と料理講習会を開く。	
37	7	事務局員社会保険に加入する。	
38	3.24	東京地区懇親会を開く。	
39	7.21	校友会館移設工事が竣工する。 (校内東部)	3. 渡辺幸夫 (土木1回)
	11. 7	校友と学生との第1回懇談会を開催する。	
40	5. 1	郡山市と付近の町村が合併して、新郡山市が誕生し、郡山市田村町徳定字中河原1番地となる。	
	10	4年毎に計画している「全校友の名簿」を作成する。	
41	5.8	41年4月1日学部は日本大学工学部と改称されたので、校友会は日本大学工学部校友会となる。	4. 根本年雄 (機械4回)
	5	全校友の会員カード書替え作業をはじめめる。	
	10.25	学部創立20周年記念式典	

事務局便り

○終身会費の納入について

終身会費（2000円）未納の方は、同封の振替用紙によつて、ぜひ御送金願います。

○住所（連絡先）変更のときの連絡

住所・勤務先の変更があつたときは、なるべく早く正確にお知らせ下さい。

なお、校友会報を父兄住所で発送することがあります。父兄の方からご子息の住所をお知らせ下さい。

○広告掲載について

校友会報への広告を希望する人は、その旨をお知らせ下さい。

○校友会事務職員について

白石 実 昭和41年5月10日から勤務
田村ミエ子 昭和38年12月1日から勤務